

人工膝関節置換術の 長期成績について



整形外科
長谷川 泰隆

人工膝関節は何年間もつでしょうか？ 当院では99%は10年以上

人工膝関節置換術は高度の関節破壊や変形に伴う障害を有する膝関節の機能を劇的に改善する優れた治療法で、高齢化社会の進行に伴い、年々その手術件数も増加してきています。現在、日本では年間約7万件の手術が行われていると想定されており、当院でも年間300件以上の人工膝関節置換術が行われています。

手術件数の増加・適応の拡大に伴い、より若年の方に対しても手術が行われるようになってきています。若年の方では活動性も高く、術後の寿命も長いわけですから、より沢山・より長期に人工関節を使うこととなります。そこで問題となるのが人工関節の長期耐用性です。人工関節も金属とポリエチレンでできた機械ですから、自動車などと同様に寿命があるわけです。

では「人工膝関節ってどれぐらいもつの？」という疑問が出てきます。一般的な人工膝関節置換術の生存率は術後10年で95%以上といわれています。これは術後10年の時点で、95%以上の人は再手術を要せず、人工関節がそのまま使える状態として残っているということです。では「残りの5%は？」と、10年以内にポリエチレンインサートが擦り減ったり、セメントで固定している骨と金属の間で弛みが生じたりして部品に入れ替えが必要になるということです。現在では人工関節の部品が改良されてきており（例えばポリエチレンインサートに対する抗酸化剤の添加など）20~30年の長期耐用性がある人工関節が開発されてきています。

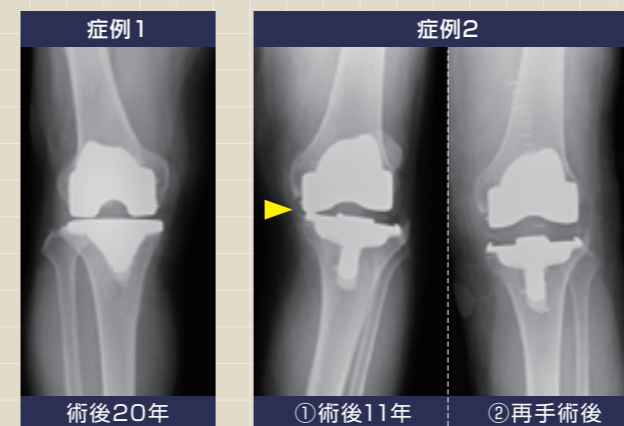
ちなみに当院で1997年~2001年にDePuy社Sigma CRというインプラントを使用して人工膝関節置換術を行った方の生存率を調査すると術後10

年で99%という結果でした。

当院では人工関節置換術後の患者の方には1年毎に定期検診に来ていただくようお願いしています。これには人工関節の金属の弛みやポリエチレンインサートの擦り減りを早期に発見する目的があります。金属の弛みやポリエチレンの擦り減りがあれば、痛みで歩けないと思われるかもしれませんが、あまり症状がないことも珍しくありません。

検診のレントゲンでポリエチレンインサートが擦り減って薄くなっているのに気付いた場合は、ポリエチレンインサートを新しいものに入れ替えるだけの手術で対応することができます。しかしながら定期検診に来られていない場合は、ポリエチレンが薄くなった状態でも痛みなどの症状はあまりありませんので、そのまま放置されてしまうことがあります。完全にポリエチレンが擦り切れてしまうと、今度は大腿骨側と脛骨側の部品が直接擦れるようになり、これらの金属もダメになってしまいます。このような場合は残念ながらすべての部品を取り換える手術が必要になってきます。

早期に人工関節の異常を発見すれば、より小さな手術で対応することが可能になる場合が少なくありません。このようなところで定期検診の意義がありますので、人工関節の手術を受けられた方は1年に1回の定期検診を受診されるようお願いします。



症例1
術後20年
人工関節のゆるみもインサートの摩耗もなく歩行可能

症例2
①術後11年
②再手術後
①術後11年でインサート摩耗が生じている
②再手術でインサートのみ入れ替えを行った

新年を迎えて



事務局長
麻生 浩美

皆様、明けましておめでとうございます。
私は、昨年の4月から前静内事務局長の後任として着任し、早9ヶ月あまりが過ぎました。この間、三河院長を始め職員の皆様に助けられ、大きな問題もなく業務を遂行できました。心より感謝いたします。また、耐震工事も無事に終了し、病院の運営も順調に推移しています。
さて、今年は病院にとって非常に重要な年となります。4月に独立行政法人地域医療機能推進機構（JCHO）の玉造病院として新たなスタートを切ることになります。職員の皆様には就業規則や給与規程など詳細な部分が未だ示せず大変申し訳なく思っておりますが、この移行を理由に退職を希望する人も無く、本当に有り難く思います。

「厚生年金」の名称が無くなることは感慨深いものがありますが、病院自体は、これまでと変わらず運営していきますので、全員で協力し、これまで以上に良い病院となるよう頑張りましょう。
この3ヶ月足らずは、移行に向けた準備作業が加速するものと思われるので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。
新しい年を迎え、少々堅苦しい内容になってしまいましたが、私自身そんなに堅苦しい人間ではありませんので、何かありましたら気軽に声をかけてください。これからも玉造病院の力となれるよう微力ですが努力してまいりますので何卒よろしくお願いいたします。



無菌手術室での人工関節手術